

ソロモン王の祈り

(1列王記8・22～26)

一、ソロモン王の祈り

23節以降にソロモン王がいのちの祈りが記されています。53節まで続きます。まずは23節をご覧ください。△イスラエルの神、主よ。上は天、下は地にも、あなたのような神はほかにありません。あなたは、心を尽くして御前に歩むあなたのしもべたちに対し、契約と恵みを守られる方です。△とあります。イスラエルの神、主の特徴は、おひとりなる神であって、祝福をもたらすことも災いをもたらすことも、おひとりになされることです。主は、契約、すなわちイスラエルと交わされた契約を守られ、契約を守るなら祝福を注がれるお方であると、祈ったわけです。続いて24節です。△あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに約束したことを、ダビデのために守ってくださいました。あなたは御口をもって語り、また、今日のように御手をもってこれを成し遂げられました。△とあります。ソロモンは、神によって立てられた父ダビデの存在があつて自分があることを弁えています。続いて25節です。△そこで今、イスラエルの神、主よ。あなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたことを、ダ

ビデのために守ってください。『あなたにわたしの前に歩んだように、あなたの子孫がその道を守り、わたしの前に歩みさえするなら、あなたには、イスラエルの王座に就く者がわたしの前から断たれることはない』と言われたことを。△とあります。ソロモン王は、主が父ダビデに約束されたことを持ち出して、祈りのことばに加えました。『あなたがわたしの前に歩んだように……』がそうです。さらに26節で、△今、イスラエルの神よ。どうかあなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたおことばが堅く立てられますように。△と祈りを続けています。

二、人を正しく評価する

列王記の最終的な著者は、ソロモン王について、次のような価値観でまとめたと思われます。それは、「ソロモン王は、始めは良かったけれども、後にだめになった。だからだめな王だった」とは見えていないことです。あるいは、「ソロモン王はすばらしい業績を残した。だから犯した過ちについては目をつむるべきである」とも見ていません。著者は、ソロモン王の良い面は良いとして見、主の御意思に背いた面については、はっきりと「罪を犯した」と見えています。このような見方は、当たり前のようにですが、大切です。と言いますのは、今の世の中は、ある人がどんなに良い働き

をしても、一点でも悪事があると徹底的に「悪人」にしてしまうからです。列王記を読むなら、それはちがうと言えます。良い面は良いと評価し、悪い面は悪いとしているからです。人を白か黒かだけで見るのは良くないです。著者は、すなわち聖書は、ソロモン王の始まりから終わりまでを知って、列王記を記しています。列王記第一2章の終わりから3章1節にかけて、興味深い文句が記されています。△1列王記2・46b、3・1△と。3章1節は非常に意味深長だと思えます。46節で△こうして、王国はソロモンによって確立した。△と語った後で、△彼はファラオの娘をめぐり、ダビデの町に連れて来て、……△と記されています。エジプトのファラオの娘をめぐって王妃にしたというの

は大きな出来事です。これこそは、若き日のソロモン王が、イスラエル王国の繁栄、またその地域の安定を願って行った政略結婚です。ところがエジプトは、人間の数よりも神々の数の方が多かった多神教の国でしたから、おひとりなる神、主を信奉するイスラエルにとって問題の種になることは火を見るよりも明らかなことでした。かの頭脳明晰なソロモンには、そのことが分らなかったのでしょうか。残念ながらソロモンは、おひとりなる神、主に仕えるよりも、国家の繁栄と地域の安定のほうを重要に見たようです。さら

にソロモンは、王であることこの地位を用いて、女性に対しては好き放題のことをしました。△1列王記11・1～4△結局、当時の世界が評価したソロモン王でしたが、異国の王と同じようなことをしてしまいました。ですが、くり返しになりますが、だからと言ってソロモン王の語ったこと、行ったことがすべてだめで、汚れていると、著者が評価したわけではありません。若き日の良い点は、良いものとして評価しています。したがって、きょう開きました聖書箇所ソロモン王の祈りはすばらしいものであり、祈りとしても、信仰としても、大いに学ぶものがあります。

三、行いに応じてさばかれる

ソロモン王も私たちもやがて、神からさばかれます。聖書の複数箇所同じことが語られていますから、確実に、神の法廷は完全なものです。聖書は、次のように語っています。△マタイ16・27△、△ローマ2・26△、△IIコリント5・10△、△黙示録20・12～13△と。ですが、次のようにも語っています。△ヨハネ3・18△御子を信じる者はさばかれなさい。△使徒16・31b△主イエスを信じた者が救われます。△と。主イエス・キリストを信じる者は、さばきにあつておぼろげなく、死からいのちに移っています。これが、聖書の語る福音です。